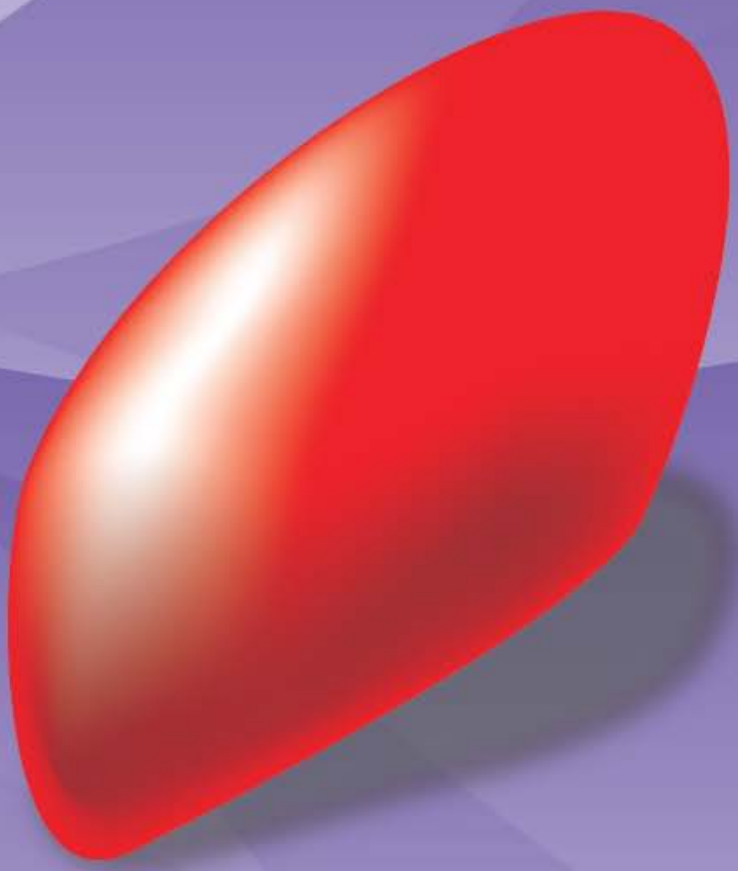
地　域　経　済

REGIONAL ECONOMY



第15号
2011.7

目　　次

理事長のごあいさつ

理事長就任にあたってのご挨拶……1

紹介記事

「地域の活性化」に向けた取り組み

～和歌山商工会議所　平成 22 年度 実施事業～……3

記事①　「和歌山商工会議所販売展・観光展！in たま電車!!」を開催……4

記事②　中国 山東省 済南市へ訪問団を派遣……5

平成 22 年度事業報告

「ぶらくり丁活性化・再生研究会」終了報告……7

「和歌山市中心市街地再生研究会」終了報告……10

平成 23 年度事業

和歌山市まちづくり戦略研究会……12

和歌山市における幹線公共交通網の再構築とまちづくりに関する研究……15

理事メンバー……17

お知らせ……17

研究成果一覧……18

理事長のごあいさつ

理事長就任にあたってのご挨拶

和歌山地域経済研究機構
理 事 長　遠藤　史
【和歌山大学経済学部長】

和歌山地域経済研究機構は、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所そして和歌山大学経済学部の三者によって平成８年７月に創設されて以来、和歌山の地域経済を活性化するための、地域に根ざしたシンクタンク的機能を担う機関として順調な発展を遂げてきました。今回、私は和歌山大学経済学部長に任命され、さらに本機構の理事長も拝命することになりました。私自身は地域経済研究の専門家ではありませんが、和歌山という地域に住み、地域の発展を希求する立場において、専門家集団たる本機構とは、その願いを共有するものと考えております。未だ浅学非才の身ではありますが、皆様の研究活動を微力ながら支えていく所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

個人的な体験になりますが、私が和歌山大学に赴任したのは昭和 63 年の春でした。赴任早々、和歌山の中心街に行ってみると、ちょうど旧丸正が閉店セールを行っているところでした。自分にとっての新しい街はとても興味深く、古色蒼然とした風格のある建物の味わいや、それを取りまく街や人々の賑わいを嬉しく眺めました。平成に入って丸正の新館が建ち、活気に溢れていたぶらくり丁周辺でのショッピングを家族と楽しみ、和歌山という街に急速に親しみがわいてきた頃のことを思い出すとき、現在に至る和歌山の地域経済の急激な状況の変化を痛感せずにはいられません。

これと多くの点で並行する状況の変化が、和歌山と地域に限らず全国各地で起こってきたことを様々なメディアによって知ると、いくつかの素朴な問いが心にわき起こります。たとえば､これほどの変化を起こさせた経済のメカニズムとはどのようなものだったのか。あるいは、そのメカニズムの解明が可能ならば、それに基づく新たなまちづくりの処方箋はどのようなものか。和歌山の地域経済の今後の発展の可能性はどこに求められるのか。―私のような非専門家はこれらの問いを心に抱くのみです。しかし幸いなことに、和歌山地域には専門家の集まりである本機構が存在します。研究に携わる方々が様々な視点から研究を推進し、その研究に基づいた刺激的な活性化の提案を行ってきたこと、そして今後も推進していくことは、とても心強く思えます。私自身も、たとえば本誌に掲載されている研究成果等を読むことによって、少しでも地域経済の現状を知り、自分がどのように地

域経済に貢献できるかを探りたいと考えています。

和歌山という地域はまた、一つの閉じた世界ではなく、他の地域との様々な相互関係を有します。経済・交通・文化など様々な領域でグローバル化が進む今日の世界を考慮するならば、今後の地域経済の発展を考えるには、グローバルな潮流とローカルな状況との響き合いに注目することもまた必要であろうと愚考します。すなわち、本機構で行われる研究は、ローカルな諸問題を専門的な視角から深く追及すると共に、一方では広く世界に開かれた視点も持つ必要があると言えるでしょう。この意味で言うならば、国内外における「うまくいっている」地域経済や、「賑わっている」中心市街地との対照研究も、ひょっとすると本機構の研究に新たな視点を提供してくれる可能性があるかもしれません。

外国語・外国文化を研究する者として、私自身は世界の様々な地域に関心を持ち、そのいくつかに実際に滞在する経験も持ちました。その中にはソ連邦崩壊直後のロシアの地方都市などという何ともいえない沈滞した状況も含まれていますが、まちづくりという観点から考えるなら、20 世紀最後の 2 年間を過ごしたオランダでの経験は印象深いものです。ライデンという小さな大学町での滞在でしたが、街の中心部の運河沿いにカフェが並び、市場の立つ日ともなれば、いったいどこにこれほどの人が暮らしていたのだろうと思うほどの人波が中心街に押し寄せる活気ある光景は、今も心によみがえります。もちろん人口や経済においては和歌山とは比較にならないほどの規模ではあるものの、その賑わいを回想すると、街の歴史への愛着やまちづくりへの参加の意欲、といった文化的な要因とともに、やはりそこには地域の基盤を作る専門家たちが存在し、小さいながらもまちづくりを進めていた経済のメカニズムがしっかりと働いていたに違いありません。

地域の発展という課題に取り組むことは、総合的な問題を解くことでありましょう。しかしその問題解明の中心に存在するのが地域経済の研究であるということは明らかです。和歌山という地域が今後、さらに輝く、生き生きとした地域となる日をイメージしつつ、本機構における研究の発展を心より願います。

紹介記事

「地域の活性化」に向けた取り組み

～和歌山商工会議所　平成 22 年度 実施事業～

和歌山商工会議所　企画・街づくり支援室
室 長　　上 村　　味 加

ご承知のとおり、和歌山商工会議所は、商工業の振興と地域の発展のための活動を行う地域総合経済団体です。

本誌では、当会議所が平成 22 年度に実施した事業のうち、「地元特産品の販売促進」や「観光振興」による「地域の活性化」に向けた取り組みについてご紹介をさせていただきます。

「当会議所販売展・観光展事業」については、平成 21 年度に実施した「わかやま自慢！特産品販売展 in 東京」の実施が本事業を展開する上で大きな契機となりました。

和歌山の特産品や観光情報を取り揃えたアンテナショップ「わかやま喜集館」が入居している施設「東京交通会館」において、和歌山商工会議所認定の「わかやま自慢品」をはじめとする特産品販売や観光情報の発信を大都市東京で集中的に展開することで、和歌山の特産品や観光ニーズ等ヒット商品の可能性を探り、地域商業の活性化に繋げる事を目的とした初めての試みでした。

多くの方々に来場いただき、和歌山の魅力を強くアピールすることができ、観光や物産に関するニーズのリサーチも併せて出来る等、新しいビジネスチャンス拡大の好機の一助となりました。

続いて、平成 22 年度は「当会議所販売展・観光展！in たま電車!!」を「わかやま自慢！特産品販売展 in 東京」において、たいへん人気であった「和歌山電鐵㈱たま駅長」とのコラボレーションによる相乗効果を踏まえ開催し、和歌山の特産品や観光情報を観光客の皆様にＰＲを行いました。【記事①として後述】

さらには、日本国内に留まらず、和歌山市と友好都市の中国・済南市で 5 月下旬に開催された第 7 回中国国際園林花卉博覧会のイベントにおいて、地元特産品及び観光資源の PR を実施し、海外においても本事業の活動を展開しました。開催後、一部出展商品に対し、中国からの問合せが入るなど成果を上げることが出来ました。【記事②として後述】

上記のような流れの中、当会議所では、3 年目に入る本事業をさらに盛り上げるため、本年度 11 月には、中部地方を代表する商業都市 名古屋市の商業施設「パレマルシェ神宮」において、当所認定「わかやま自慢品」をはじめとする地元特産品の販売展を行う予定です。

また、「販売展・観光展！in たま電車!!」は、たいへん好評であったことから引き続き開催する事が決まっております。

本県にとって、「地元特産品の販売促進」と「観光振興」は地域活性化に欠かすことのできない重要なキーワードの一つであり、当会議所事業を通じ、「地域経済活性化」に繋げてまいりたいと考えています。

【記事①】

「和歌山商工会議所販売展・観光展！in たま電車!!」を開催
～たま電車でわかやまの物産と観光をＰＲ～

平成 22 年 11 月 20 日、「当会議所販売展・観光展！in たま電車!!」を「和歌山電鐵㈱たま電車内」及び「貴志川線和歌山駅ホーム」において開催した。

本事業は、地元商業の活性化に繋げることを目的として、当会議所認定の「わかやま自慢品」をはじめとする地元特産品や和歌山の観光情報を観光客(乗車客)の方々を対象に宣伝活動を行い、地域資源の魅力を広く発信する取り組みである。

和歌山駅ホームに設けた「出展ブース」には、観光客をはじめ和歌山電鐵を利用する多くの方々が立ち寄り、当会議所農商工連携事業商品である「和歌山ロール」の試食や、現在量販店やスーパーなどで販売され好評を得ている「和歌山ジンジャーエール」の試飲などを楽しんで頂いた。

また、たま電車内では「わかやま観光○×クイズ大会」を実施し、同乗する子供からお年寄りまでたくさんの参加をいただき、たま駅長代理から出される○×回答に一喜一憂するなど、車内に笑い声の絶えない、終始なごやかな雰囲気の中で大いに盛り上がりを見せた。

オープニングの様子（駅構内）

わかやま自慢品ブース（駅構内）

わかやま観光クイズ大会の様子
（たま電車内）

わかやま観光クイズ大会の様子
（たま電車内）

県・市観光キャンペーンスタッフも応援
わかやま自慢品ブース（駅構内）

【記事②】

中国 山東省 済南市へ訪問団を派遣
～和歌山商工会議所認定「わかやま自慢品」をはじめとする地元特産品や観光をＰＲ～

平成22年5月28日～5月30日の3日間にわたり「第7回中国国際園林花卉博覧会都市文化週間派遣事業」（和歌山市委託事業）として、市からの要請を受け、当会議所職員2名を含む総勢7名による「済南都市文化週間訪問団」を派遣した。期間中は、中国山東省済南市の同博覧会場において和歌山市ブースを出展し、当所認定「わかやま自慢品」をはじめとする地元特産品や観光情報のＰＲ活動を行った。

済南市内風景

済南市は和歌山市と友好都市提携を結んでから27年目を迎え、北は黄河、南は泰山に接し、山東省の省都として、省内の輸送面で重要な位置を占めている。

歴史は古く、漢の時代に済南と名付けられ、以降、山東省の政治、経済、文化の中心地として栄え、現在600万人が暮らす。市内には、たくさんの泉があり、山紫水明の地として観光の名所にもなっている美しいまちである。

和歌山市キャンペーンスタッフ「アゼリア」も応援参加

現地では、まず、博覧会場におもむき、出展に備えた準備作業を行い、出展ブースを整えた。

出展初日は、金曜日で広大な会場内ということもあり出展ブース付近の人通りは少なかったが、週末となる土曜日・日曜日には、多くの来場者が訪れ、紀州てまりの展示や菓子類の試食を行う「和歌山市ブース」に興味を示し立ち寄って行く方々で大変賑わった。

特に、「和歌山ラーメン」の試食では長い行列ができるなど、盛況であり、「スープがおいしい！」と、高い評価を受けた。

来場者で賑わう出展ブースの様子

また、山東省外事弁公室や済南市外事弁公室

との歓迎レセプションならびに済南市国際園林局との歓迎昼食会を通して、両市の文化や地域の習慣等について意見交換を行い、終始なごやかなムードで懇親を深めることができた。

今回の活動により、和歌山市、和歌山商工会議所、済南市の友好交流に寄与できたものと思われ、また、済南市の方々が和歌山市を訪れたくなるような「和歌山の魅力発信」が実現できたものと考える。

人気の和歌山ラーメンに行列で並ぶ様子

平成 22 年度事業報告

「ぶらくり丁活性化・再生研究会」終了報告

研 究 会 主 査　　木 下　　雅 夫
(財)和歌山社会経済研究所　常務理事・事務局長

「ぶらくり丁活性化・再生研究会」は、昨年度の消費動向に関する研究会の提言を受け、継続的な研究の取り組みが必要との判断により実施された。

以下にその最終報告を、「報告書」本文より一部抜粋して行う。

■ 「報告書」　より

～和歌山地域経済研究機構では関係各位の協力の下、改めて中心商業地域（ぶらくり丁）の再生につながる活性化策の研究およびその実現を目指す取り組みを実施する研究会を開催することとした。その内容は、まず基礎的調査として、消費者や一般顧客の動向調査（来街者調査・通行量調査）を実施したうえで、最も重要なフェーズとして、商店街関係者や当事者の個店経営に関する実情及び実態把握と今後の“あり方”を“本音”で聞き出すことを計画した。さらに同時に、地域商業として目指すべき将来の姿＝ビジョンを明確に示すことにもチャレンジした。いずれも自分たちの“商売の形”や生活の糧となるものはどのようにしていけば良くなるのか、あるいは自分たちのかかわりはどういったことになるのか、といったことが関係者においてある一定の理解と共通認識を持つことが本課題の取り組みに絶対不可欠と考えたからだ。～

A：調査プログラム

1. 通行量調査…　①中心市街地活性化基本計画に基づきその成果測定のために設定された 7 地点のほかに、さらに 11 地点の調査地点を追加し「ぶらくり丁・本町二丁目界隈」の人の流れをつかむ
2. 来街者調査…　①ぶらくり丁・本町 2 丁目界隈の通行者を対象
   ②調査内容は　来街の目的／利用実態／評価等
3. 事業者調査…　①ぶらくり丁各個店の事業承継の可能性などの情報を個別聞き取りを実施し、本研究の核心的課題の抽出と把握。
   ②調査概要　・ぶらくり丁 6 商店街及び周辺商店約 300 店対象
   ・和歌山商工会議所経営相談員による聞き取り調査
   ・調査内容／店舗形態（店舗専用・住居兼用・自己所有等）／後継者の有無／店舗経営の今後（継続・業種転換等）

B：研究プログラム

1. 「BID」 …… ①「まちづくり」と「まちの運営・管理」における手法の一つで「Business Improvement District」と呼ばれ米国や欧州で盛んに利活用。

②主な特徴 ・地域住民や自治体から一定の資金を調達し「まちづくり会社」に代表される組織に管理運営業務等を委託。

・地域内の「治安維持」「清掃」「公的施設管理」「産業振興」「マーケティング」等のサービスを独自に提供。

2. 「S・C」… ①商店街を形成するカテゴリーにおいて、いわゆる S・C（ショッピングセンター）の持つ機能と特徴について基本的なモデルを研究し、本システムがぶらくり丁活性化・再生に活用できる可能性の検討。

3. 先進事例研究…高松市丸亀町商店街 ＜訪問＞

- 高松市中心商店街として 400 年の歴史を持ち、8 商店街に 900 店を超える店舗と 2,000 店以上の歓楽街がある。
- 郊外型大型小売店舗の乱立による中心商店街の疲弊化が進み非常な危機感のなか、再開発事業として一部 150 店で構成する、A-街区プロジェクトを推進し完成。順次拡大中。

C：実証プログラム

1. 個別相談会… ①ぶらくり丁活性化・再生のためには、明確なビジョンづくりとともに域内事業者自身の活性化・再生への意欲、意識の確認と現状把握が不可欠として取組む。

②調査プログラムの事業者調査とともに、希望者に対して実施。

③実施概要

- 実施時期：平成 23 年 1 月 25 日（火）、2 月 1 日（火）
- 場所 ：和歌山商工会議所
- 参加者 ：6 事業者
- 内容 ：ア）事業内容についての相談
  イ）ぶらくり丁活性化・再生について

2. ワークショップ… ①「バーチャルぶらくり丁を創ろう」

～みんなで来街者視点の理想的なぶらくり丁を考える～

・現実に縛られない思い切った議論を通じて、夢のあるぶらくり丁を創ってみる。

②「みんなの学校」における和歌山市採択事業／共同参画

【メンバー】

主査	木下　雅夫	和歌山社会経済研究所　理事・総括研究部長
	中平　匡俊	和歌山社会経済研究所　主任研究員
	松村　光一郎	和歌山社会経済研究所　主任研究員
	足立　基浩	和歌山大学経済学部　教授
	大泉　英次	和歌山大学経済学部　教授
	竹林　明	和歌山大学観光学部　教授
	吉村　典久	和歌山大学経済学部　教授
	辻本　勝久	和歌山大学経済学部　准教授
	柳　　到亨	和歌山大学経済学部　講師
	山本　敦子	和歌山大学経済学部　助教
	畑　　光穂	和歌山商工会議所　企画・街づくり支援室長
	青木　勇次	和歌山商工会議所　企画・街づくり支援室主任
	中浴　正隆	和歌山商工会議所　企画・街づくり支援室主任
	藤村　幸司	和歌山商工会議所　企画・街づくり支援室主事

(注: メンバーの所属・肩書については平成 22 年度時点)

【研究会開催】

研究会を 9 回開催(高松市丸亀町商店街現地視察を含む)。

【研究成果】

研究成果 No.21　ぶらくり丁活性化・再生研究会報告書

「和歌山市中心市街地活性化における中心商業地の問題」（平成 23 年 3 月発行）

「和歌山市中心市街地再生研究会」終了報告

研 究 会 主 査　　足 立　　基 浩
和 歌 山 大 学 経 済 学 部 教 授

ミニ東京を目指した時代は過ぎ、これからの地方都市で求められるのは中心市街地の個性化への支援策であろう。具体的には街並み整備の支援や河川の浄化、そして、土地問題への踏み込みである。商店街地区の土地は個人資産だが、一方で観光客の誘客が可能な「街の顔」という面を有している。強すぎる個人の土地所有権を少し緩和し、私的財産から市民が守る土地への工夫、そのための税制の工夫などの支援が求められる。つまり、都市の公共性を地域住民だけでなく、「外部から来る人」、「これから住む次の世代、若者」まで配慮してまちづくりができるか、が問われているのである。

こうした問題意識のもと、平成 22 年度の中心市街地再生研究会はこれまでの研究会に加えて、当会メンバーの尽力で作成した中心市街地の観光マップを動画サイトで解説するという「わかやま散策隊」企画をスタートさせた。

これは、和歌山地域経済研究機構のマップを基礎としながら民間会社の協力のもと和歌山大学の学生が、実際に歩き、取材し、その紹介ドキュメントを動画サイト（You Tube）で発信するというものである。魅力が少なく見えた中心市街地に意外にも多くの知られざるスポットを見つけることができた。

わかやま散策マップ　（レトロめぐりコース）

今後は特に大阪南部などの大都市からこの場所に来ていただく作業が必要であるが、この点については、大手のテレビ局が特集を組んでこの事業を紹介していただくことができ

た（毎日放送、「ちちんぷいぷい」、2011 年 2 月 11 日）。

和歌山の試みが関西全域に知られた結果、和歌山の中心市街地のその周辺観光がいまはわずかだが増えてきている。

今後も、長崎市で 2006 年に実施されたまちあるき体験博覧会「さるく博」のような形で和歌山を PR できたらと思う。

【メンバー】

主査	足立　基浩	和歌山大学経済学部教授
	大門　忠志	財団法人和歌山社会経済研究所研究部長)
	藤代　正樹	財団法人和歌山社会経済研究所主任研究員
	萬羽　昭夫	財団法人和歌山社会経済研究所研究部長(～2010 年 9 月末)
	鈴木　孝明	財団法人和歌山社会経済研究所主任研究員(～2010 年 6 月末)
	畑　　光穂	和歌山商工会議所企画・街づくり支援室長
	大泉　英次	和歌山大学経済学部教授
	山田　良治	和歌山大学観光学部教授
	堀田　祐三子	和歌山大学観光学部准教授
	山本　敦子	和歌山大学経済学部助教

(注: メンバーの所属・肩書については平成 22 年度時点)

【研究会・活動】

研究会を 7 回開催(動画完成お披露目会を含む)。

わかやま散策隊の活動として、動画撮影ロケハン、ロケ、動画編集等を実施。

【研究成果】

- 研究成果 No.22　「わかやま散策マップ」（平成 23 年 3 月発行）
- レトロめぐりコース動画による紹介
  http://www.eco.wakayama-u.ac.jp/wtkkk/kengai-t10.html

平成 23 年度事業

■ 研究事業

- 和歌山市まちづくり戦略研究 （詳細は研究概要①として後述）
- 和歌山市における幹線公共交通網の再構築とまちづくりに関する研究 （詳細は研究概要②として後述）

■ 刊行物

- 機関誌「地域経済」
- 報告書

■ ホームページによる広報

URL：http://www.eco.wakayama-u.ac.jp/wtkkk/

≪研究概要①≫

和歌山市まちづくり戦略研究会

研 究 会 主 査　 木 下　 雅 夫
(財)和歌山社会経済研究所　常務理事・事務局長

【研究の背景及び目的】

未曾有の災害がわが国を襲った。しかし、日本国民は必ず立ち直る。そのための努力と知恵は惜しみなくつぎ込まねばならない。ところで、和歌山県も近いうちに発生するであろう「東南海・南海大地震」による災害が予想される中、被害を最小限にとどめ「安全で安心できる生活空間」の確保・構築が改めて議論されている。さらに、将来に向けてのまちづくりの重要な要素でもある、社会インフラの整備や財政負担、産業構造や人口構造のトレンド、ライフスタイルの変化などもカバーしたグランドデザイン的な都市計画づくりが必要とされている。マクロ的にとらえれば、社会構造の枠組みの大きな変化にどう対応していくかということといえよう。

各地域にはその立地特性に応じたさまざまな固有の課題が存在し、その解決に向けた取り組みがなされているが、今年度、和歌山地域経済研究機構では「和歌山市まちづくり戦略研究会」として、和歌山市を中心とした和歌山市圏域における将来の望むべき姿～「持続可能な都市像」＝グランドデザイン～づくりを研究することとした。地域特性を活かしながら多くのひとが交流し「住んでよかった。来てよかった」といわれるまちづくりのビ

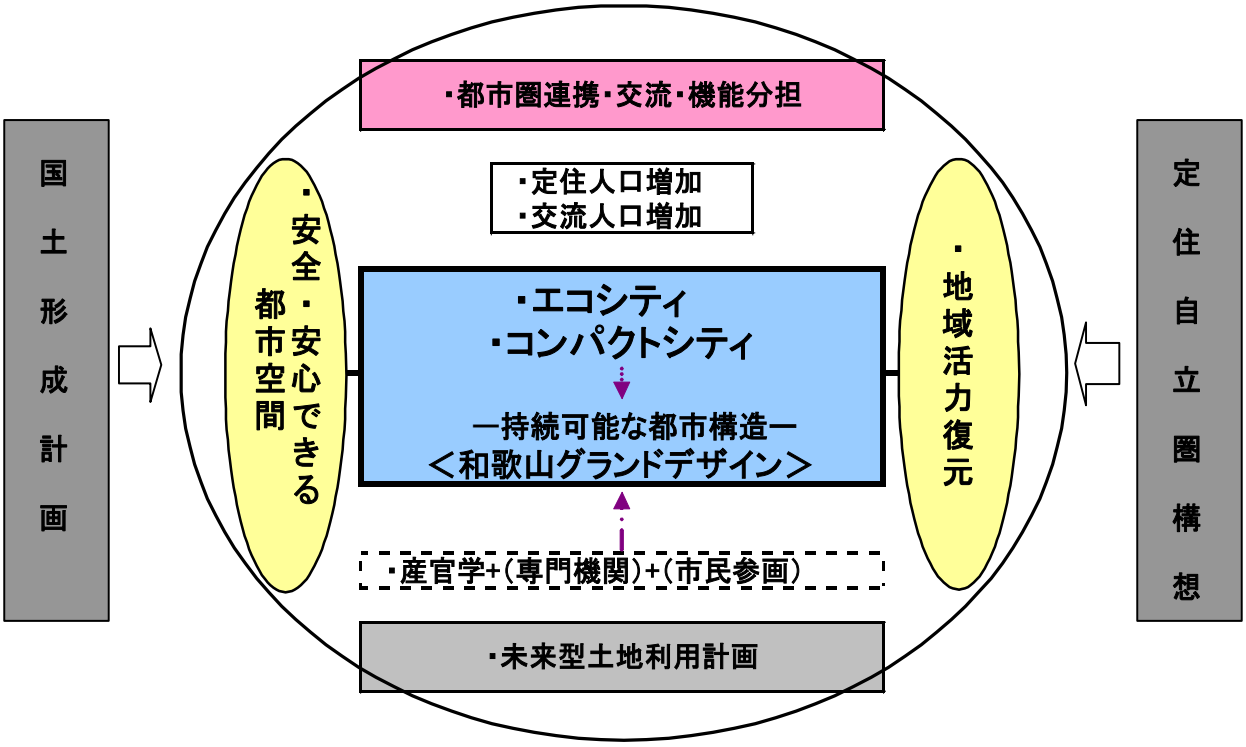
ジョンを構築することが目的である。そのアプローチとして、さまざまな条件と課題を整理し、われわれが目指すべき方向性と和歌山市圏域のあるべきグランドデザインを関係各者の知見とアイディアにより描く。

【研究の概要】

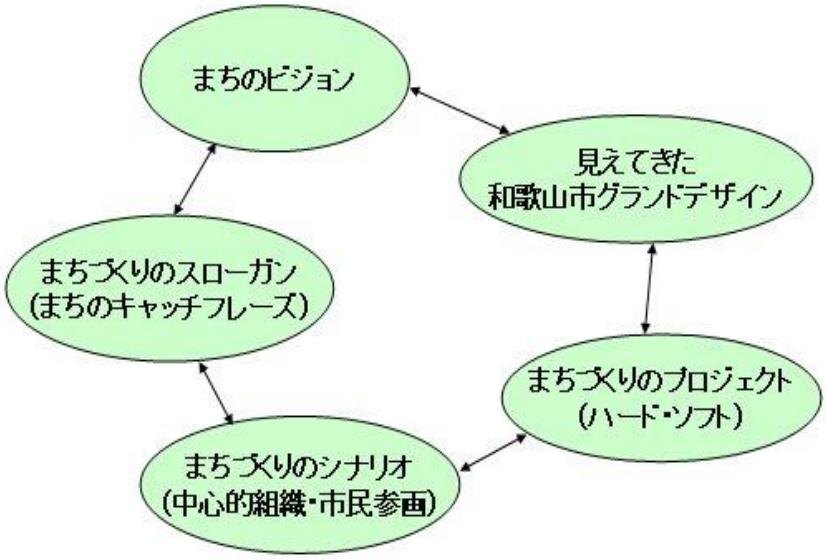
研究は平成 23 年度、24 年度の 2 ヵ年の計画で取組む。和歌山市圏域の現状と課題を十分整理しながら目指すべき将来像をさまざまな要素で統合し、最も和歌山らしい「まちのありよう」を構築する。目指すべきビジョンとイメージの一例を次に示す。

＜ビジョン＞
- 定住・交流人口の増加
- 地域活力復元（産業・コミュニティ・人材・文化等）
- 安全・安心できる生活空間（防災・医療・福祉・教育等）
- エコシティ（環境保護・交通体系）
- コンパクトシティ（都市機能効率化・拡散防止等
- 未来型土地利用計画（ゾーニング・モザイク）

＜イメージ＞



＜プロセス＞



【メンバー】

主査	木下　雅夫	(財)和歌山社会経済研究所	常務理事・事務局長
	中山　健太	(財)和歌山社会経済研究所	研究部長
	畑山　善生	(財)和歌山社会経済研究所	研究部長
	中平　匡俊	(財)和歌山社会経済研究所	主任研究員
	松村　光一郎	(財)和歌山社会経済研究所	主任研究員
	大泉　英次	和歌山大学経済学部	教授
	足立　基浩	和歌山大学経済学部	教授
	鈴木　裕範	和歌山大学経済学部	准教授
	大井　達雄	和歌山大学観光学部	准教授
	山本　敦子	和歌山大学経済学部	助教
	中浴　正隆	和歌山商工会議所	企画・街づくり支援室主任
	中谷　恵理子	和歌山商工会議所	企画・街づくり支援室主事

なお、本研究会には、随時各界の有識者、専門家のオブザーバー参加を予定している。

≪研究概要②≫

和歌山市における幹線公共交通網の再構築とまちづくりに関する研究

研 究 会 主 査　　辻 本　　勝 久
和 歌 山 大 学 経 済 学 部 教 授

【テーマの概要】

和歌山市では、移動における過度の自動車依存と都市の拡散が同時に進行し、環境（地球温暖化ガスの排出等）・社会（交通事故、健康問題、広大な公共交通不便地域の存在等）・経済（中心市街地の衰退等）の各面において、自動車依存シンドロームとも言うべき様々な問題が生じている。

国内外の数多くの都市も同様の問題を抱えてきたが、富山市、ストラスブール（仏）、フライブルク（独）などでは「交通まちづくり」が実施され、成果を挙げている。交通まちづくりとは、「まちづくりの目標に貢献する交通計画を、計画立案し、施策展開し、点検・評価し、見直し・改善して、繰り返し実施していくプロセス」（交通まちづくり研究会編著『交通まちづくり』p.2）である。先進都市では、まちづくりの目標を明確に示した上で、その実現に向け、既存鉄軌道の活性化や LRT（次世代型路面電車）・BRT（快速バスシステム）の導入などによる公共交通幹線の充実や、バスネットワークの再編、交通のバリアフリー化、IC カードや情報提供システムの導入、パーク・アンド・ライドの整備、自転車レーンや都市型レンタサイクルの導入、中心市街地の自動車抑制といった具体的な交通施策がパッケージで展開されている。和歌山市でも、民産官学が連携して戦略的に交通まちづくり施策を展開し、PDCA サイクルのもとで継続的に改善しながら、あるべきまちの実現を目指すことが求められる。

和歌山市においてはこれまで、地方鉄道活性化の全国的モデル事例となった貴志川線活性化をはじめ、いくつかの取り組みがなされ、交通まちづくりへの理解と期待が高まってきた。また、平成 22 年に市長が「道路・公共交通網の充実」や「メリハリのあるまちづくり」を公約に掲げて当選し、平成 23 年度には和歌山市地域公共交通会議の設置が実現するなど、交通まちづくりの本格的推進に向けた条件が整いつつある。

このような中、本部会では、和歌山市のまちづくりのあり方を確認した上で、幹線公共交通網の再構築に焦点を絞り、その意義について環境・社会・経済の 3 つの視点から定量的・定性的に調査研究を行う。国内外の地方中核都市における交通まちづくりの事例に関する情報収集も積極的に実施する。幹線公共交通網再構築の実現可能性や実現までのプロセス等についても検討するが、その際には、「○○だからできない」という発想ではなく、「こうありたいから○○を変えよう」という発想を重視したい。

【メンバー】

代表	辻本　勝久	和歌山大学経済学部　教授
	藤田　和史	和歌山大学経済学部　講師
	山本　敦子	和歌山大学経済学部　助教
	関本　禎孝	和歌山商工会議所　企画・街づくり支援室室長補佐
	中谷恵理子	和歌山商工会議所　企画・街づくり支援室主事
	木下　雅夫	(財)和歌山社会経済研究所　常務理事・事務局長
	畑山　善生	(財)和歌山社会経済研究所　研究部長
	中山　健太	(財)和歌山社会経済研究所　研究部長
	中平　匡俊	(財)和歌山社会経済研究所　主任研究員
	松村　光一郎	(財)和歌山社会経済研究所　主任研究員

なお、本研究会には、和歌山大学大学院経済学研究科・経済学部生数名のオブザーバー参加を予定している。

理事メンバー

（平成 23 年 7 月 1 日現在）

【地域経済研究機構理事】

理 事 長	遠藤　史	和歌山大学経済学部教授　経済学部長
副理事長	山田　良治	和歌山大学観光学部教授　観光学部長
理　　事	小倉　正義	和歌山商工会議所　専務理事
	北田　佳秀	(財)和歌山社会経済研究所　副理事長
	木下　雅夫	(財)和歌山社会経済研究所　常務理事・事務局長
	石橋　貞男	和歌山大学経済学部教授
	鈴木　裕範	和歌山大学経済学部准教授

お知らせ

和歌山地域経済研究機構ではロゴを作成いたしました。今後、出版物やホームページ等で広く利用いたします。

和歌山地域経済研究機構

三角形 3 つは、和歌山大学、商工会議所、経済研究所の 3 つの機関を表しています。

三角形同士重なる箇所の色が変化することで、3 つの機関がそれぞれ協力することで新たなものが生まれるということ表現しました。

濃い緑の人工的な線は経済の流れと、和歌山の山、海、川の波を表現しました。

Designed By Kazuya Horikirikawa

研究成果一覧

ナンバー	タイトル	発行年月
No.1-a	提言　紀淡連絡道路を実現し和歌山地域の活性化をはかるためのグランドデザイン	平成 10 年 8 月
No.1-b	提言　このチャンスを活かそう　紀淡連絡道路を実現し和歌山地域の活性化（グランドデザイン概要版）	平成 10 年 8 月
No.2	ニーズの多様化と規制緩和の進展に伴う経営戦略－和歌山企業の活性化を目指して－	平成 10 年 9 月
No.3	和歌山地域産業の市場構造	平成 10 年 10 月
No.4	和歌山市民・近隣地域住民の消費動向と和歌山市小売商業の課題	平成 11 年 11 月
No.5	和歌山市の高次都市機能	平成 11 年 11 月
No.6	和歌山県における産業構造の変化と雇用動向	平成 12 年 3 月
No.7	若者に魅力ある街づくり	平成 13 年 6 月
No.8	ベンチャービジネス事例研究	平成 14 年 6 月
No.9	IT 活用による生活向上の可能性	平成 15 年 5 月
No.10	和歌山県の物流戦略	平成 15 年 9 月
No.11	和歌山県におけるカジノの可能性に関する調査・研究報告書	平成 16 年 12 月
No.12	観光戦略研究会調査・研究報告書	平成 17 年 3 月
No.13	都市創造戦略研究会調査報告書	平成 18 年 10 月
No.14	和歌山における地場産業の実態と将来動向に関する研究会	平成 19 年 3 月
No.15	建設業の動向に関する研究会報告書	平成 19 年 11 月
No.16	コンパクトシティ研究会報告書『コンパクトシティと都市づくり』	平成 20 年 9 月
No.17	ホスピタリティ研究会報告書	平成 21 年 9 月
No.18	和歌山市民・近隣地域住民の消費動向と和歌山市小売商業の課題	平成 22 年 3 月
No.19	和歌山市における市場（いちば）活性化についての研究	平成 22 年 3 月
No.20	観光客の受け入れに対する和歌山県民の意識調査	平成 22 年 3 月
No.21	ぶらくり丁活性化・再生研究会報告書　和歌山市中心市街地活性化における中心商業地の問題	平成 23 年 3 月
No.22	わかやま散策マップ	平成 23 年 3 月

和歌山地域経済研究機構

<構成機関>和歌山大学経済学部・観光学部　和歌山商工会議所　(財)和歌山社会経済研究所
〒640-8567 和歌山市西汀丁36 和歌山商工会議所内
TEL:073-422-1111 FAX:073-433-0543

Designed by Kazuya Horikirikawa